

第13回「Qの会」

研修会報告・総会報告

7月3日香川大学において、第13回「Qの会」総会・研修会が開催されました。今回の研修会は「薬物療法とリスクマネージメント」のテーマでお二人の講師をお招きし行われました。

薬物療法については、新潟薬科大学薬学部臨床薬学研究室准教授 朝倉俊成先生をお迎えしました。朝倉先生は、インスリンに関して数多くの実践を経て、エビデンスに基づいた薬剤の添付文書をご自身で手掛けられています。正しい使用方法を熟知されている先生ならではの講義内容は、納得し自信を持って患者指導に生かせるものでした。

リスクマネージメントについては、香川大学医学部付属病院医療安全管理部専任リスクマネージャーの豊嶋克美先生をお迎えしました。豊嶋先生は臨床経験もあり、数多くのインシデント・アクシデント分析を手掛けておられます。今回は実際に遭遇した事例の、グループディスカッションによりRCA分析を行いました。RCA分析についての理解が深まり、分析を行い、システムを改善していくことの大切さを学ぶことが出来ました。

研修会終了後、総会が行われ、予定された議題が審議され、可決されました。皆様のご協力に感謝します。皆様のご協力に感謝します。皆様のご協力に感謝します。



研修会風景

研修会のアンケート結果

第13回研修会参加者54名のうち49名より回答をいただきました。講師については両講師共に良かったという意見が98%を占めていました。

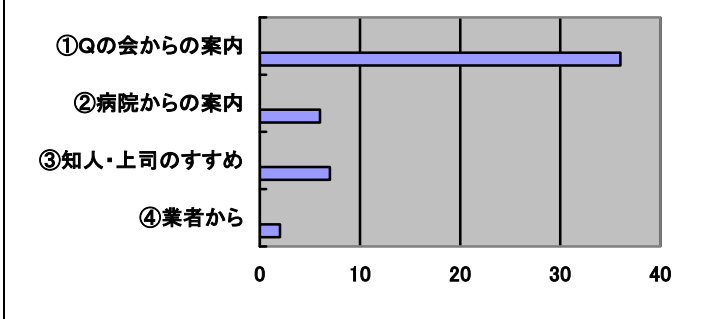
朝倉俊成先生の講演では、「実際の指導時に根拠に基づいた指導が自信を持って出来る。」「添付文書や使用上のガイド等の重要性がわかった。」話し方や速度が良く、話しは聞き取りやすかった。またユーモアも有り飽きさせない話術で人を引き付ける魅力があった。と言った意見がありました。

豊嶋克美先生の講義は、「実際にRCA分析が出来、分析方法が理解できた。」「難しい内容をわかり易く丁寧に説明してくれた。」「臨床経験もあり、リスクマネージャーとしての知識が豊富だと感じた。」と言った感想でした。

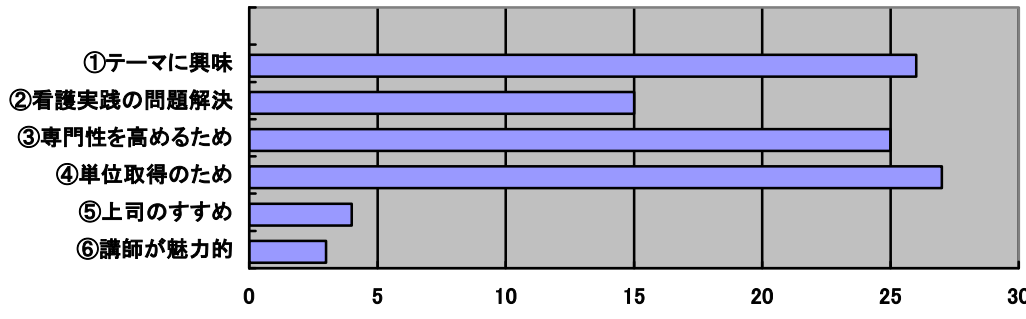
今後の研修についての希望は、「災害看護」「カーボカウンティング」「地域連携」「糖尿病検査」「フットケア」「糖尿病教室について」「指導困難患者への対応」などがありました。



研修会をどうやって知ったか(単位は人数)



研修会参加のきっかけ(単位は人数・複数回答可)



第14回「Qの会」研修会の案内

日時：10月9日(日) 10時から15時
場所：香川大学医学部看護学3階305教室(看護学科棟)メインテーマ
『災害時にそなえた糖尿病看護の在り方』
講師：神戸市看護大学療養生活看護学准教授 池田清子先生

《会員の声》
第十三回 「Qの会」研修会報
高松赤十字病院 馬場里美さん

七月三日、香川大学において、第十三回「Qの会」研修会が開催されました。今回の研修会は、「リスクマネージメント」をテーマに行われました。

午前中は、新潟薬科大学の朝倉俊成先生による「薬物療法とリスクマネージメント」の講義でした。特に、バイエッタペンの監修の話は印象に残りました。バイエッタペンは、唯一空打ちをしない注射薬です。朝倉先生は、「どのよう薬にすれば、空打ちをしなくても、正確に注射ができるか」という課題、使用ガイドに項目を追加されていきました。

今までの何回も見ていた使用ガイドですが、私はその部分は見逃してしまいました。今後、指導の際にその項目を参考にしたいと思いました。

また、使いかけの注射薬は室温保存ですが、中にクレソールが入っているため、冷蔵庫より室温の方が、菌は繁殖しにくいという実験結果も教えていただきました。その他、指導の際に役立つ様々な知識を得ることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

《平成23年度Qの会フチ研修会》

平成23年度は左記2回のフチ研修会を予定しております。会員の皆様ぜひご参加ください。尚、この研修会は単位更新ができません。

☆第3回フチ研修会

日時：12月17日(土) 13時30分～14時30分予定
場所：香川大学医学部付属病院
テーマ「運動療法」(仮)
講師：理学療法士

☆第4回フチ研修会

日時：2月25日(土) 13時～14時(予定)
場所：香川労災病院 管理棟 第2会議室
テーマ「糖尿病性腎症の食事」(仮)
講師：香川労災病院 栄養管理室室長 管理栄養士 平田邦江 先生

《学会・研修会のご案内》

認定更新のための研修単位が取得できる予定の研修会をお知らせします。

☆第16回日本糖尿病教育・看護学術集会
日時：2011年9月24日(土) 25日(日)
場所：東京ビックサイト
連絡先：FAX 03-3508-1302

☆日本糖尿病学会中国四国地方会第49回総会
日時：2010年11月11日(金) 12日(土)
場所：アスティとくしま
連絡先：FAX 088-633-7121

☆第6回中国四国糖尿病教育セミナー
日時：2011年12月4日(日)
場所：くにびきメッセ(松江市)
☆第10回日本フットケア学会年次学術集会
日時：2012年3月17日(土) 18日(日)
場所：大阪国際会議場
連絡先：FAX 06-6456-4105

☆第46回糖尿病学の進歩
日時：2012年3月2日(金) 3日(土)
場所：岩手県民会館・岩手県公会堂等
連絡先：FAX 022-722-1117

《新米 糖尿病看護認定看護師として》

2001年に日本糖尿病療養指導士資格を取得し、内科混合病棟で患者指導を行っていましたが、再入院して来る度に合併症の重症度がどんどん増しQOLが低下し辛い思いをしている患者さんが多く、自分の指導に何が足りないのかと日々疑問をもっていました。また、関連学会などで糖尿病看護認定看護師の活躍ぶりを見聞きするたびに、いつかは私も以上に糖尿病看護を追求したいと考えるようになり、資格にチャレンジしたいと強く思うようになりました。そして組織からも、看護師経験年数約20年近く経過しようとしていたこともあり、所属部署だけにとまらず組織横断的に活動するように求められるようになりました。

福岡県立大学看護実践教育センター内の糖尿病看護認定看護師教育課程で学ぶうちに、一生懸命指導するがゆえに生活者である患者さん自身のことが見えなくなりました。理想像を作り上げていたことに気づくことができました。患者さんの思いを否定せず傾聴することができていないなかつたなど自分のコミュニケーションスキルに問題があったことも分かりました。

糖尿病看護認定看護師の3つの主要な役割として「実践」「指導」「相談」があります。最も基本となる実践では、生活者としての患者さんのあるがままを受け止め、その人の価値観・人生観を大事にしながら、生活のなかに無理なく取り入れられ、自分の意思で継続できる方法を一緒に考える。患者さんと良きパートナーシップをもち、困っていること、悩んでいることをいつでも気軽に相談してもらえ存在となる。この2点を重点項目として自分がモテリングとなりながら、糖尿病看護の楽しさ・やりがいを持ってスタッフたちに伝えていきたいと思っています。

認定看護師取得後からフットケアを初めとした相談件数も増加し、毎日のようにスタッフから相談があるようになりました。スタッフ自身、糖尿病看護に無関心なわけではなく、気づきが生まれた結果、相談にうなされたと自身スタッフの変化を嬉しく感じています。

今後は、依頼者であるスタッフ自身が、自信をもって主体的に糖尿病看護を展開していくことができるよう支援していくことが目標です。

今までは二次、三次予防に主眼をおいた看護を行ってききましたが、講義や演習で一次予防の重要性を知り、今後地域連携の一環として一次予防にも力を入れていきたいと思っています。

長年の夢であった糖尿病看護認定看護師として、また新たなスタート地点に立ったばかりです。欲張りな性格の私は、あれもこれもやりたいことが山積していますが、まずは合併症によりQOLを低下させないよう患者さんの幸せを第一に考え、足元から一歩ずつ着実に歩いていきたいと思っています。

◆編集後記：書中お見舞い申し上げます。節電も大切ですが、適度なエゴで熱中症には十分お気を付けてください。

広報担当 木村裕美・串田久美